

威三十九ヶ村の民權兵衛と共に良左衛門の徳を頌し、爲に生祠を設けた。

**ゴヨウザカ 五葉坂** 白山の市ノ瀬口登路で、彌陀ヶ原の上に在る。越前名蹟考に、『五葉坂を登る。爰より室までの間、おしなべて五葉の松草の如くに生茂りて地も見えず。雪におされて低く、方々へはびこりたるなり。』と見える。この地標高概ね二四〇〇米。

**ゴヨウノマ 御用の間** 金澤城二ノ丸御殿なる松之御間をいひ、藩侯視政の正廳で、上の間には藩侯が出席し、二ノ間には年寄衆・御家老が着座し、御用番はその少し離れた上に居た。之を俗にお席ともいふた。今藩末に於ける事情を言はんに、御用の間に於ける藩侯は決して火鉢に手をかざす如きことはなく、茶又は煙草をも喫せず、座蒲團を用ひることもなかつた。午前四つから午後八つまでを定刻とし、御用番の引かぬ前に退出することとはなかつた。御用番は他の年寄中よりは半時計り遅く退席するを普通としたが、御用番が八つ以後に遅れる時は藩侯も亦居残つた。

藩侯出席中は御用部屋・奥取次、稀には御近習頭等が種々の用務を以て交々出入し、藩侯は是等に應答する外、多く日記に筆を執つた。藩侯の手許には機密の書類を焼却する器具があつて、それを火中御用といふた。出席時間中若し他行の必要があれば、その間は閉鎖し、歸城の後尙定刻中なる時は再びこゝに入つた。

**ゴヨウパン 御用番** 加賀藩の制、年寄・家老以下皆月次交番して當務をする。之を御用番とも月番ともいふた。

**ゴヨウベヤ 御用部屋** ↓キシジユウゴヨ

ウ 近習御用。  
**コライ** 古來 ↓モリモトヤコライ 森下屋古來。

**ゴリゴリバシ** 五里五里橋 鳳至郡粟藏と鈴屋との間なる町野川に架した粟藏橋の一名である。飯田・宇出津・輪島に各五里を隔るが故にいふ。

**ゴリタウゲ** 五里峠 羽咋郡高濱の部落で海岸の道路から分かれ、北方山間を經過して牛下の部落南方に出る間をいふ。  
**ゴリチ** 五里地 ↓ヨリチ 寄地。  
**ゴリヨウ** 五菱 金澤の俳人。その居を不用亭といふた。凡そ希因と時を同じくし、作句は寶曆年間まで見える。

**ゴリヨウカクノタカヒ** 五稜廓の戦 明治二年榎本武揚等が五稜廓に戦うて敗れた後、幕府はその殘徒古川平次郎・小出市松・藤田伊太郎・大森吉次郎・川口藤吉郎・廣瀬福太郎の六人を大聖寺藩に預けた。因つて之を大聖寺に護送したが、三年赦免せられたから、四月十九日靜岡縣に引渡した。

**ゴリヨビ** 鯀呼 ↓ヨビゴリ 呼鯀。  
**コレイシユウシヨ** 古例集書 一册。端書に寶曆十二年三月とある。諸士の平生心得置くべき古例を集録したものである。  
**コレキヨ** 是清 キヨ 鳳至郡阿岸郷に屬する部落。郷村名義抄に往古是清伊賀が住してゐたから村名となつたとあるが、それは地名から苗字を生じたことの顛倒であらう。但し是清が本來何人かの諱であるには疑がない。

**コレキヨジヨウ** 是清城 鳳至郡是清に在つた。越登賀三州志故墟考に、城跡は三四十間許四方といふ。里人門山とも稱し、大館(或

是清に作る)伊賀守が居たといふが、その何人なるかを知らぬとある。

**コレクニ** 是國 珠洲郡樺原の内の小字。  
**コレシゲ** 是重 加賀の刀工。加州住は是重と切る。應永頃。藤島一派であらうか。  
**コレトキシヨウ** 是時庄 石川郡に在つた。康正二年造内裏段錢並國役引付に『拾八貫二百七十五文、正親町家加賀國是時庄之内宮永段錢』と見え、陸涼軒目録には、『寛正三年七月十一日、赤松次郎法師知行分加賀國是時庄云々』ともある。宮永は後世中村郷内に存する。

**コレヒサ** 是久 珠洲郡馬渡の内の小字。  
**コレヒラ** 是平 加賀の刀工。加州金澤住是平と切る。寛文頃。  
**コレラマツリ** 虎列拉祭 安政六年八月虎列拉祭を金澤に行つた。虎列拉は時人之を暴瀉病ともコロリとも三日コロリともいひ、その轉歸の速かなるを以て、人心恐怖に襲はれ、市況亦頓に不振に陥つたから、藩吏之を憂へ、資を城下に頒ち、除疫の爲に祭儀を擧げ、催物を行はしめたので、坊間直にその番附を一枚刷にして販賣するものがあつた。

**コロウキタン** 古老紀談 一册。古老聞書ともいひ、畠山義則出奔のことから、前田利家の石動山攻陥に至るまでのことが記されてある。執筆は萬治三年であるが、著者は不明である。  
**コロウキユウブン** 古老舊聞 一册。一名壬子集録とも言ひ、寛文十二年前田綱紀が家譜撰定のために古老の傳聞を聞かした書翰の輯録である。

**コロウキユウブンキリヤク** 古老舊聞記略

一册、加賀・能登・越中に於ける舊蹟・珍説の書上である。

**コロウザン** 虎狼山 石川郡吉野附近の十景の一つであるが、能美郡釜清水の領に屬する。山腹に虎狼相對する如き岩石があるによつて名づけられた。  
**コロウデンワ** 古老傳話 一册。畠山尾張守義深が初めて能登の守護を兼ねた時から、子孫歴世の諱・法名等が記されてある。著者不明。

**コロサ** 木呂佐 鹿島郡多根の小字。天正十二年八月廿八日附前田利家が青木善四郎に與へた印書に、『たね・ころさ兩村之内半分宛爲兵糧米進候。』とあるから、元はころさも獨立の部落であつたと見える。  
**ゴロザエモンブン** 五郎左衛門分 鳳至郡上町野郷に屬する部落。郷村名義抄に、この村は本江の内で五郎左衛門の持高であつたから五郎左衛門村といふたので、正保・寛文・貞享の高辻帳に皆しか見える。然るに五郎左衛門退轉の後五郎左衛門分と稱することになつたとある。

**ゴロジマ** 五郎島 石川郡大野庄に屬する部落。  
**コロバ** 木呂場 能美郡樺の内の小字。  
**コロバガハ** 木呂場川 石川郡野々市を流れる富樫用水の一部で、材木等を流し來ることがある故木呂場があり、隨うて木呂場川といはれる。龜尾記には木呂川と書いてある。

**ゴロマル** 五郎丸 珠洲郡延武の内の小字。  
**ゴロマルヌノ** 五郎丸布 武鑑所載加賀藩から幕府に進献する品物のうちに五郎丸布がある。加越能銘記に越中の産物を列擧して、